「やってみる」という学びで地域活性。知識を試し、社会で使えるチカラへ

千葉商科大学

Chiba University of Commerce

千葉商科大学の「やってみる、という学び方」は、教室で学んだ知識を社会に向けたさまざまなプロジェクトの中で実践する学び方。実際の地域や企業と連携した取り組みを通して、社会で使えるチカラを磨く。

取材・文／山路晃平

市川市民の手作り行灯で大学近隣の地域を活性化

千葉商科大学に隣接する真間山弘法寺（ままさんぐほうじ）は、1000年以上の歴史を持つ地域のシンボル。昨年7月21日、この真間山弘法寺の石段や境内に色とりどりの行灯が並べられ、夏の夜を彩った。

千葉県市川市真間で行われている「真間あんどん祭り」は、近隣5校の小学生などが作った行灯で、弘法寺の石段から真間の商店街までをライトアップするイベント。地域活性化や高齢者福祉など、地域の社会的課題の解決をめざすとともに、多世代の交流の機会を提供し、地域への愛着を深める一大プロジェクトだ。企画・運営を担うのは、千葉商科大学人間社会学部の学生チーム。弘法寺、真間地区の商店街有志、市川市役所、地域の小学校や病院、そして総勢約170名の学生スタッフが協働して創り上げる。

2015年に始まり、昨年で5年目を迎えたこのイベント。行灯の数、参加店舗数、来場者数などが毎年右肩上がりに増加し、地域の夏の風物詩になりつつある。産学官民が連携した活動として、近隣住民からの評価も高く毎年期待されている。

昨年は新たな取り組みとして、誰でも参加できるフォトコンテストやホームページを制作し、情報発信にも注力。また、地域の子どもたちと制作した「巨大きらめき行灯」を会場に設置するなど、イベント当日の見どころを増やし、地域の人たちへの認知向上につなげていった。

試行錯誤を繰り返す中で成長していく学生たち

人間社会学部3年の代田千英さんは、学生スタッフの代表として、学生組織の全体指揮や地域の人々との交渉に取り組む中で、様々な課題にも直面した。

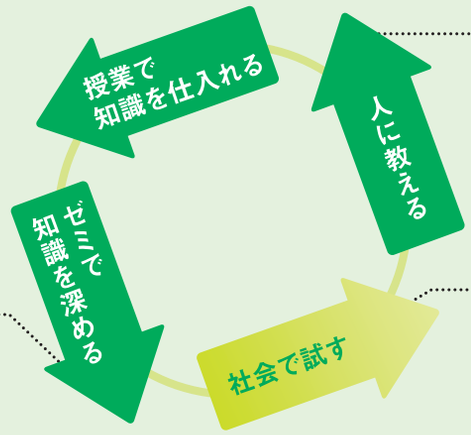
「来場者は年々増え、それに従い、私たち学生スタッフの組織も大規模に。組織内での情報共有にまず一苦労しましたが、活動を円滑に進めるための『報・連・相』を徹底していくことを心がけるようにしました。このプロジェクトの経験を活かし、今後は市川市の枠を越えて他の地域の活性化の企画にも携わっていきたいです」

この成功体験が、新たな課題に取り組む自信となり、学生を成長させる。

（右）行灯作りのワークショップは、対象を真間地区の子どもたちから市川市民全体に拡大。当日には「きれい！」「これ描いたやつ！」と喜びの声が上がった。
（右下）夜になると約400個の手作り行灯が、弘法寺参道から真間の商店街までを照らす。ライブパフォーマンスやビンゴ大会、浴衣の無料レンタル着付けサービスなども行われた。

知識を、チカラに変えるCUCの「やってみる」という学び

CUCでは「やってみる」という学びを重視しています。教わった理論をどう使えば良いのか、どんな知識が足りないのか。社会に出て実際に試してみることで、多くの発見に出会えます。知る、試す、気づく。その繰り返しの中で、知識をチカラに変えていくのが、CUCのアクティブ・ラーニングです。



ゼミ

座学で学んだ知識を、さらに専門的に深める少人数クラス。仲間と議論したり、フィールドワークに出かけたり。合宿で絆を深めるゼミもあり、学生生活の中心です。

TA/SA制度

CUCの授業で特長的なのが、上級生が得意科目を下級生に教えるTA/SA制度。教わる側は年の近い先輩に気軽に質問でき、教える側にとっても過去に学んだことを復習できるメリットがあります。 ※TA（Teaching Assistant）SA（Student Assistant）

プロジェクト型学習

企業や地域、教員、もしくは学生自身が設定した課題や目標に対して、学生がチームを作り協力して取り組みます。仮説を立てて学生が自立的、主体的に動かしゴールをめざします。

学部を超えた連携が、さらに大きな力を生み出す

「地域政策コース」と「メディア情報コース」を持つ政策情報学部も、人間社会学部とともに、前回に続いて2回目の参加。ポスターやチラシといった広報物の作成に加え、1回目の実施で好評を博した弘法寺祖師堂をスクリーンとしたプロジェクションマッピングや、お祭りの様子を記録するドキュメンタリー映像の制作を手がけた。

政策情報学部4年の塙さんは、今回の参加にあたり初の試みに挑戦。大学の最寄り駅である国府台駅を、可愛く装飾した行灯で飾ることでメルヘンチックな空間を作り、お祭りをPRする「Ｍｅｒｕｋａｗａあんどん」を企画した。

「公共の場を可愛く演出することで人に喜んでもらえる作品制作を以前から考えていました。そんな時、京成電鉄さんからお祭りのPR計画として行灯を設置するお話が上がったことを聞き、チャンスとばかりに企画を提案しました」

行灯の装飾素材には、子どもも扱いやすい折り紙やリボンを選択。個性あふれる行灯により、駅構内の一角は可愛らしく演出された。

会議を通して正式に採用された企画は、お祭り本体とは別に約２００個に及ぶ小さな行灯を制作するプロジェクト。子どもたちの協力を得て実現したイベントは、駅利用者からも好評を得た。

学びの内容や得意分野の違う2つの学部が連携することで、1つの学部では為しえない幅広い取り組みが実現。学生一人ひとりの意欲によってさらに進化する様は、まさに「やってみる」という学び方が体現されているといえよう。

実社会での活躍に直結する千葉商科大学の学び

授業で学んだ理論を社会の現場で実践することで、学生たちは新たな課題を見つけ、たくさんの気づきを得る。今後も、地域が抱えるさまざまな社会的課題に学生として何ができるのか、研究は続いていく。プロジェクトに対し、学生たち自らが課題を見つけて目標を設定し、やり遂げた経験が、主体的に未来を切り拓いていく「社会で使えるチカラ」につながるのだ。

Information

千葉商科大学

巣鴨高等商業学校（1928年）を前身として1950年開学。現在は商経学部、政策情報学部、サービス創造学部、人間社会学部、国際教養学部を擁し、独自のプロジェクトによる実学教育で内外から高い評価を受けている。同大学の学生を積極的に採用する「CUCアライアンス企業」約830社（2020年1月現在）との提携や資格取得サポートなど、キャリアサポートにおいても高い実績を誇る。

●DATA
千葉県市川市国府台1-3-1
TEL 047-373-9701（入学センター）
URL https://www.cuc.ac.jp/